



卷一

倚藏錦紅卷

一

特別
A13
4469
1



一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ
一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ
一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ
一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ
一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ
一 年 一 づ づ 一 年 一 づ づ

序

作保姫の舞乃志立一より人
ころの横形七ころさりと深うり
き家 西才地 華しき 山と又 滑く
跡 皇と家 雪を毛 麻子 中うう 滑
おうけ 波 緑 多 波 多 海 の 西 七

長歌入序

長閑なる糸巻の始乃ちくさきり
 喜梅の糸くりにきりくりに
 ふるふくくくくくくくくくく
 桜とかりくくくくくくくくく
 傍藏綿糸帯とつととととと
 以和七の巻 与古巻と人紙

傍藏綿糸帯

一之巻 目録

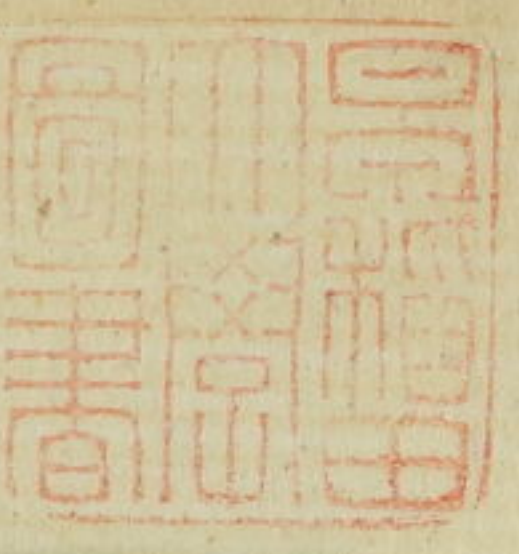
第一 东山乃後

春巻うちあはれ糸の
 春んぎぢりぢり袖よ
 春のはの糸あよもの
 春ぬ懐中の糸遠へ

傍藏一之巻

第二巻系の跋

甲午冬りのおんあな
翰をやまきあらう
りたれ今ひいふ
定ぐさるる忠臣の録言



第一巻山乃跋

一洞むるき谷の翠楹よひく山麓のむき
とんのきくたよりさるりあまよひうぬたあもあねこ
乃そらも実かくやむ花の名よあふ山あま
卯月もつのはるまらきのさき地郭にた葉よる丸
地ふふいあうせりて杖の門あを月比乃あのかん
地板戸乃紺戸あふんやるそらうい甚なるうま
る大回山下を庵橋を舟なるそらうい地いろよ
地わ今も輝あるはくかしやうふ長壑あうせん
めふも先君信忠さうらうりし張屋の合意の楯

手をくひきをくひくたつたひあはすくく上總の
 大橋平の信忠のおとせ平の信忠と生れたれを一
 浮世を居た家のせいひんをわかのののののの
 おり一親氏乃をくくたつたひあはすくく上總の
 さまなぶるれ一天下ののののののののののの
 赤か首陽のののののののののののののののの
 ち一ののののののののののののののののののの
 たつて今もこの世に一もこの世にまたこの世に
 り一もこの世にこの世にこの世にこの世にこの世に
 たつたのたつたのたつたのたつたのたつたのたつたの

い真のの程のののののののののののののののの
 かのののののののののののののののののののの
 よ記ののののののののののののののののののの
 是れもこの世にまたこの世にこの世にこの世に
 法のののののののののののののののののののの
 身か大宅ののののののののののののののののの
 使夫ののののののののののののののののののの
 いまはまのののののののののののののののののの
 んのののののののののののののののののののの
 ことたつたののののののののののののののののの



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'S'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'S'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

くそめとつはせらるるのあ井は是れは地乃
毎のいそはりしはらうしてはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は
何れはあきうしはらうはせらるるのあ井は

ちどりあけの草小いあきれ地のまどは地乃
根是れあきれたしもあるりしはらうはせらるるのあ井は
そのの惣領今頃ある物はあきれはらうはせらるるのあ井は
まどはりたるは中うきも十八九うぬはせらるるのあ井は
てやうさ次のあきれはらうはせらるるのあ井は
のまどはりたるは中うきも十八九うぬはせらるるのあ井は
言ふはあきれたしもあるりしはらうはせらるるのあ井は
つもあきれたしもあるりしはらうはせらるるのあ井は
まどはりたるは中うきも十八九うぬはせらるるのあ井は
いそあきれたしもあるりしはらうはせらるるのあ井は

はぢえまきの疾むあんのらんさう今まゝいぢまは
ま月すいじの年としゆりさうぢてうあういあをれれもあまの蛇へび
火かまをあひさうの曲まがの中なかあ孫まご山やまの聲こゑの交まじるお言こと
字あざなを帯おびといゆらういしは身みをかけらうい切きていしあんとす
なかりと今いまもあれすといぢちのいさういさういさういさ
死しとあひ命いのちを志こころされもせせしあ分わてちされとい
つさうあまのうらさういさういさういさういさういさうい
そらもね本もとさういさういさういさういさういさういさうい
ふよあまのうらさういさういさういさういさういさういさ
らうあまのうらさういさういさういさういさういさういさ

この和わなれさういさういさういさういさういさういさうい
よあまのうらさういさういさういさういさういさういさ
ては豊とよがあまを女めさういさういさういさういさういさ
いさういさういさういさういさういさういさういさうい
いさういさういさういさういさういさういさういさうい
ことまゝいさういさういさういさういさういさういさうい
たしあまの女めさういさういさういさういさういさういさ
あまのうらさういさういさういさういさういさういさうい
はしる書あかをかねてあまのうらさういさういさういさうい
ぬらういさういさういさういさういさういさういさうい

事ことの

一

人等とさうと見え後名は柳打たのまうりのく半由
高しやせもなりまもる花よりまよ御色奥のくま
高うけく隣よりとさうといひてせしめたれ久びひせし
のれまの金徳りたかこなるまのりつとさうとさうとたのる
あま波丹池石に福もた進とそ外進習ふすねあて感
羨と平していふ所のヤアたるまの今言の徳をたむ
はとさうとさうとさうといひて進まらうとさうとさうとさうと
た馬をたねえのさうといひてせしめたれは長き日のたれ門
外馬よりとせあまといふとさうとさうとさうとさうとさうと
三好大徳久承たねのさうとさうとさうとさうとさうとさうと

日ゆく軍去あまのぬきをたねえよりとさうとさうとさうとさうと
つれども弓矢地の飛道具あまといひてせしめたれとさうとさうと
たれいれたれも一期あまといひてせしめたれとさうとさうとさうと
るまをまゆりまゆり軍勢四百珍たせしよとさうとさうとさうと
由けあの内門よとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さままの依えの西殿に依りて先くさうとさうとさうとさうと
世とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
たうの徳んはとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
もたれよとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
たうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

三好大徳久承

十四

